

第4回 TONセミナー

海洋の開発プロジェクトにおけるボトルネック

～海では何が必要とされているのか？中小企業が今解決すべき課題を考える～

講師：独立行政法人海洋研究開発機構 **川口勝義** 氏

日時：2014年4月17日(木)

セミナー 15:00～17:00 / 交流会 17:00～18:30

場所：神戸国際会議場401・402

参加費：無料(セミナーのみ) / 2,000円(交流会)

募集人数：100名(先着順)

申込方法：裏面に記載の上、事務局までFAXまたはE-mailにてお申し込みください。



主催：テクノオーシャン・ネットワーク 後援：神戸市、(一財)神戸市機械金属工業会



<講師紹介>

川口勝義 氏

独立行政法人海洋研究開発機構、地震津波防災研究プロジェクト、
技術開発グループ、グループリーダー



1993年東海大学大学院にて学位取得、博士（理学）、東海大学講師（非常勤）、ハワイ大学機械工学部博士研究員、海洋科学技術センター特別研究員を経て、1998年、海洋研究開発機構（旧海洋科学技術センター）へ入所、2008年より現職、専門は海洋計測工学、海中ロボット工学。海中・海底における観測の自動化を目指す。機構では海底ケーブル技術を利用した海底のリアルタイム観測システムの開発に従事。

<講演概要>

海底の地震・津波観測システムDONETの開発は日本国内に世界トップの技術力を有する通信用海底ケーブル技術を利用して開発が行われているが、システム全体としてはこの技術にとどまらず、観測用のセンサ技術、ロボットを用いたシステム構築のための作業技術の開発など、他分野にわたる問題を解決することで実現されている。このような開発では必要な技術や製品が国内に無く海外メーカーの協力を頼るしかない分野もあり、これらがプロジェクトのボトルネックとなる場合が多々存在する。国内メーカーの協力を得て問題の解決について検討を行っても、国が主導する開発研究は産業化が難しいと言われてしまう。世界的には、マーケットが存在するので、製品が流通しているはずだが、なぜ国内メーカーは競争力を持ってないのか？グローバル化が進む世界で海洋立国日本を実現するためにはその技術力をどこに向けていけばよいのかを考える。

<申込書> TON事務局宛 FAX:078-302-6475

氏 名 :

社名・団体名 :

所属・役職 :

電話番号 :

Eメールアドレス :

交流会(一方に○をつけて下さい): 参加する / 参加しない